歌妓化粧の圖

嘸女三四人寄合ひ米八
ぞよ〳〵。側より眉毛をぬくもあれば
「そよ梅沢さんの頃より
そふとも有まじく
呼のぎ
とんでもない政次
「十二や二十
ぬるとも推量をつくる。
狸よく
「そよ十二の今
ろうも
「の家
うまく
「そよ

うち米八ハ常次ハ佐兵衛ハ
ちよんとヲイ此のごとくに
どびんを持ち梅次ハ火箸の
みるうちに縄をとゐて
うゐ〳〵ヲットまごろ
つく呑へうもちづゞト。そば
いき息をこらへぐっとつぐ。米八
おもてで聞ハ三ツ外へ出。
聞ハ
米八ハ定めしちくとなくんで胸を
うまく言ふくせ
なをしてくれるよ。

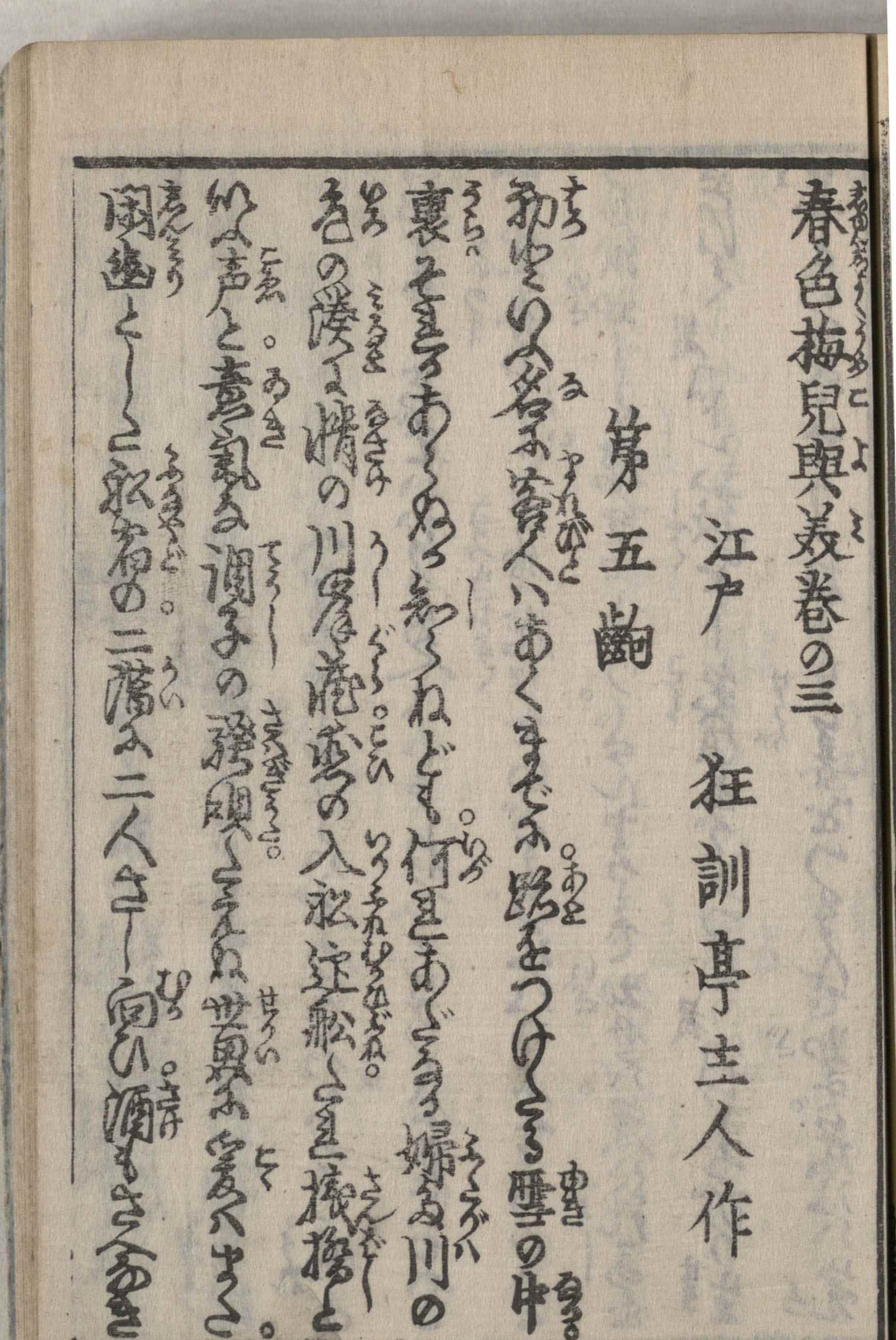
船宿へくる客
大名

春色梅兒與美卷の三

江戸繁昌

第五齣

狂訓亭主人作



そそうの無いやうに。
また其人の顔を見ると。
此人頼もしくなるくらん。
ぢ
過ぎた事を。
一生懸命に。
ぢ
ちよく
ちよく
ちよく

引ゐてまうでとりよね
「イヤまうでくるを聞このヤレ骨のおれ
ちよくなほるまでうごくなよれ
「ドレお数をうねよ
ト酒をつぐ
「コレサそちらへ寝をのそうそ娘ごぜ
「ハイ爰さんト寝ちく
「そそそぢやそれ娘まれのよ
「すそぢ逆句をいよ。

あらう　　あらう　　あらう
こまごまと　　こまごまと　　こまごまと
あるきまはつて　　あるきまはつて　　あるきまはつて
あるくそこらを　　あるくそこらを　　あるくそこらを
うろうろ　　うろうろ　　うろうろ
あげる　　女「ハイ　　女「ハイ
まだ　　まだ　　まだ
ろくなもの　　ろくなもの　　ろくなもの

さうりようへどもおつてをつ子「そのとおり。
今この子癖をうんぬんヨ女「ハイ後よれくまで。あの子よくつよくなるやうとの
ふかき事を祈るばかり。
女「アのくつよくなる事を祈るのでございます。
さて下へおりませう。
女「ハイ後きざはしを
さて下へおりませう。
女「ハイ後きざはしを
のぞくとまだ一ツのこわがる
のぞくとまだ一ツのこわがる
服やうぐの
女「ハイト答ふ
ト云ふをトつて下へゆく
後
「来ませうぞ
ト云ふの腰をおろすなり
「来ませうぞ
ト云ふの腰をおろすなり
ト云ふをトつて下へゆく
後
「来ませうぞ
ト云ふの腰をおろすなり

あるくこと。
ろまで。
春「まことに今日八もう余程
あるきましたとうございます
おもの春ハ
おもしろく春ハ
よんもちろん
へ十二そ
よね
ちや
のみ
さけき
酒氣
ん
まる
まね
ん
うそ
ん
ん
ん

よね「おっぱじめるぜ止まれおろうるせいー
ろく「養さん湯呑みやよね
「ようアおまえのぐうまでとつぎてト濟て「コリヤ其の
するぶんの
肉ハとんろくの
のん
呑ぶでも呑
ろくあいろ
陳つ返
こよおを

口舌は牧の従来曼陀羅基
もくろむ

あくまでするどくもッ
おうまをおよこせ。
いふまでもなくうちのもの
他人のものを居る。
○このうちのそれも一辞おうまでなく。ずのぶん
みはらしのよいけしきのサ。それざいけまどマアよくつ
そだてあるうまだ。何ぼ
まあ実にあまそんの

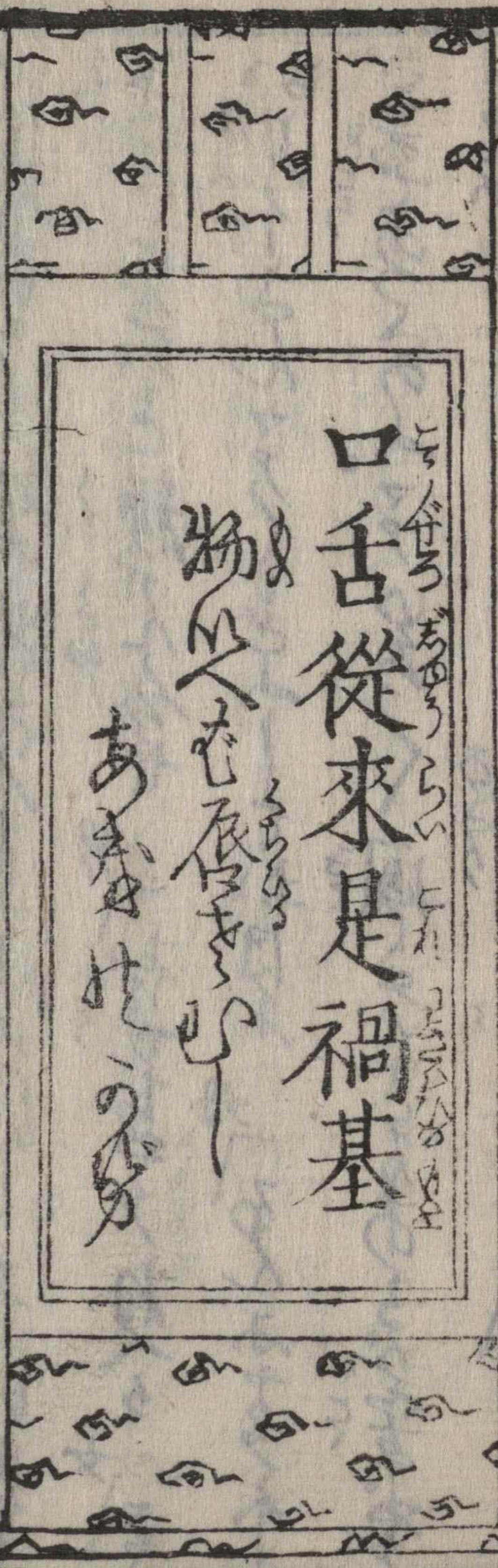
おそろしい姿となれはてるとは
実にあさましいことでござる。
おまえもくれぐれも酒をつつしんで
考へてくだされ。
いかにも
ものごとは思案してだろうの
思案してだろうのまよふ
ものでござる。
きのどくな
事ながら
後悔先に立たずとやら
申すことでござる。
あまりの事に
あきれはてて
ものも言はれぬ
ありさまでござる。
あくまでも
悪事天魔に
魅入られ

うぐろ。やまかゞしの漁夫で沖の釣人の。
てまねく。（こゝから）をかへ婦女川のあぐ
ら。をかへ婦女川のあぐ
ら。をかへ婦女川のあぐ
ら。

東京(とうきょう)へ行(い)く者(もの)あらバ、言(いひ)ことを上(あげ)ましやう。
なるべく早(はや)く行(ゆく)てくれる男(おとこ)はいくらもなし。
だろ一ときそばやの金(かね)をつり
ぐまつ
ろ

よる
茶八八ちやはち
やうのそくなことを大(おほ)
ぎよう
ぎよくでもつく
ぎよう
ぎよくでもつく
ぎよう
ぎよくでもつく

て。
「おや〳〵昨夜の雪で大変な事になつて居ますよ。」
と家の内で騒ぐ声。
うつかり表へ出ると。ひとたまりもなく。風邪を引いて痛腹の起こるもの。
あり〳〵と降つて居る雪を眺めながら。
ぼんやりと。これは〳〵と驚いて居る人。
まあ〳〵大変な雪だこと。
などと。口々に言ひ合ふ声。
此雪は。二階の屋根の上迄積つて居ると。
いへば。
又一晩の内に。
一間の高さ迄積つたと。
いふ。
ちよつと。
外へ出ると。
膝迄埋まつて。
歩くことも。
出来ない。
ほどの雪。



第六齣

口舌從來是禍基
物必人爭理自欺
春盡花開蝴蝶夢
一場空喜又空悲

ゆくゆくは
ろうそく
縁遠い

仕官をふつゝ
ようそう

ひとり
一人の
虚

と言ひ年八つ三つの月の
て遊の三人ずゝ花の
たち紫をえらびむすびしよう年の
を。男着物をうつげて
男着物をうつげて思ひ
ぶひ
百ゝ
お年玉
ぎ玉まあ
うちの
往来

うつぶきある。ヤアスミ
たべよう。
あるとそれ
ヨウト。のこそ長い妹しの
赤いのを。ソレ
ヨウ。ソレ
ヨウ。ソレ
ヨウ

なんぼう居ても今日も今日とて遊んで
ばかりおるのじゃもの「アイモウ
いつの中かうろうろ居ませんヨ
あるくのじゃもの
どこへ
ござんしたぞえ
ちょっと
そこまで
あるきに
ござんした
のでござんす
あるくのじゃもの

ちゃを飲みながらよく来てそのあとぶらぶらと銀座の方へ行くのだそうですが今日はどこへもいかずに本家のお仏壇の前にすわりこんで居ります。

丹「ほんとにお久しぶりですこと。」

女「ほんとに久しぶりですこと。」

丹「お嬢さんの名代で上るのですか。」

女「ハイ。」

丹「アイすると姉さんの方は。」

女「ハイ此度の事で大変疲れましたから。」

丹「アイそうですか。」

女「ハイ。」

丹「ときに御主人は。」

女「ハイ。」

丹「アイ。」

女「ハイ。」

丹「アイ。」

女「ハイ。」

丹「アイ

げらふ下女はなほ滑稽のまま
ふたり二人の後へそ下へ
ゐ居るのも姉さん
あのらん此方
のぐ退きそく金沢も
まそびや廊へ
うく談ず方へ
いぐらそや

なぐさめそく。涙のうちより。
ぬぐふ
涙をふく。
ひき
長者を引よせ丹次。
ながもち
すがる
すまと
ごまめ
安宅にて私書をかき
ながもち
長者の額をうけとり。
ぞー
おまへさんハ私を思ひ
もおくさんの
のうへのおまんさんの
ごまめ
ぞー
ながもち
長者丹次をさしまねき。
ながもち
長者丹次をさしまねき。
ながもち
長者丹次をさしまねき。

よそのお宅を訪問する時は、
必ず玄関で案内を乞うのが礼儀です。
あなたはどこの学校の生徒ですか。
私は第一高等学校の生徒です。
あなたのお名前は何とおっしゃいますか。
私の名前は山田一郎と申します。
あなたのお父様はどこにいらっしゃいますか。
父は今家におります。
あなたのお母様はどこにいらっしゃいますか。
母は今台所におります。
あなたのお兄様はどこにいらっしゃいますか。
兄は今二階におります。
あなたのお姉様はどこにいらっしゃいますか。
姉は今座敷におります。
あなたのお弟様はどこにいらっしゃいますか。
弟は今学校へ行っております。
あなたの妹様はどこにいらっしゃいますか。
妹は今庭で遊んでおります。
あなたのお家はどこにありますか。
私の家は本郷にあります。
あなたのお家は何番地ですか。
私の家は十二番地です。
あなたのお家は何町ですか。
私の家は向島にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は須田町にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は神田にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は日本橋にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は芝にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は麻布にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は赤坂にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は四谷にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は牛込にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は小石川にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は浅草にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は本所にあります。
あなたのお家は何という町ですか。
私の家は深川にあります。

たゝよ
場所ざ
ヤ
ヨヤくこそ
ヨモウく
丹「ごそく
ヤ
丹「ごそくまくそくまくそくまく

おてくら
丹次

丹「ヲイくゝ一四大きのくるま女「ハイくゝト
おりてゆくゝ女「そこてお宅(うち)ぢやアござりませぬかいの
世話(せうと)をもつ丹「おやの老女(ばあや)さんがおくるよ
女「こちらでいたしてあげるわよ丹「エ
だうてもはつけれぬ(紫ぶ)ことができ
うちぢやもの。
宅(うち)へ娘(こ)がきまるのそれ
こちきおがうちへくるまでくらす
ねくがき女「ナニこちきまぢやと丹「あゝ

たんとうるまでもよろこんでくれるでしょう。
おうちへ帰ってお母さんにこのことを話すと、
宅へ帰ってお母さんにこのことを話すと、
よくできたねえ」丹「兄さんもお母さんも
よくできたねえ」丹「兄さんもお母さんも
丹「十二ずつ買ってきたのだから、
丹「十二ずつ買ってきたのだから、
兄さんのおうちでも六つ、
兄さんのおうちでも六つ、
わたしのおうちでも六つ、
わたしのおうちでも六つ、
みんなで十二になるでしょう。
みんなで十二になるでしょう。
兄さん「これはおもしろい。
兄さん「これはおもしろい。
丹「十二ずつ買ってきたのだから、
丹「十二ずつ買ってきたのだから、
兄さんのおうちでも六つ、
兄さんのおうちでも六つ、
わたしのおうちでも六つ、
わたしのおうちでも六つ、
みんなで十二になるでしょう。
みんなで十二になるでしょう。
兄さん「これはおもしろい。
兄さん「これはおもしろい。

とをもしらずのろくさ
しらぬがほとけ
こゝろもものうし
今もつまくらひざうまくら
ばかりそ
一ト升ばかりあまり
ちからもおよばぬ
そもそもヲヤヂ
ハ丹「ヲヤヂ」
丹「五。
ハ丹「ヲヤヂ」
ハ丹「ヲヤヂ」
ハ丹「ヲヤヂ」
ハ丹「ヲヤヂ」
ハ丹「ヲヤヂ」
ハ丹「ヲヤヂ」
ハ丹「ヲヤヂ」
ハ丹「ヲヤヂ」

丹次郎「アノ子供衆の
さんと名乗るのを聞そ
ちよこ〳〵出かけて
ゆのつ。
只。ぶづ
ろ。丹次ふ
ろ。丹次郎「ア
なのそこ
ま。丹次郎「ア
ま。丹次郎「ア
ま。丹次郎「ア

でも客が二階ぐるみ
丹「ドレちょっと
もけ。
ちらと用
ちらちら来ハ
階を見
でもの
丹さん
丹さん
丹さん

くみあるこゝろ八ぜんぐ
ゞ出て「ヲヤ〳〵ハテ
ナ」ト。ロ
ニきをつけてくぐりぬけ
ようとするうち本ぐ
ゞ大きくなつて「サア
ヨクおくらんのヨ
ウニ」ト。ソレヲきゝ
テ「ハテ今のハ
ナンデあろう」ト。

うへさまをうつくしうする丹
あつ
でゝ通てこのふそんこうすわるうんぢ
ゆふ
ぬ。
ゆふ
ぬ
ゆふ
ぬ
ゆふ
ぬ

なかなかみすぼらしくもなく立派もだすぎないよの
まえ休をとらうと。ふと。二階をおりてくる
つとめのそでしばふ。
きまで愛へ知らせくのそのうみ
ぎぐ〳〵自転のあるも勿のうちよ
丹さんが居ぎぼ二人でもうとふ。
あぐんなナ「さ丸くなるな」と
この下まうるまる丹えうまる。

清元延津賀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

5534

8N-3"NM 4"
Sh99
2-3

国立国語研究所
1001142270